

平成19年3月期 決算関連補足資料

I. 連結財務ハイライト	1
II. 連結損益計算書	3
III. 連結貸借対照表	6
IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数	7
V. 個別財務ハイライト	8
VI. 株式の状況	9
VII. 開発状況表	10
VIII. 主な開発品のプロフィール	14

平成19年5月10日

大日本住友製薬株式会社

- ・本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- ・本資料の数字は四捨五入で表示しています。四捨五入のため、合計数字に差異が生じる場合があります。
- ・「単純合算」で表示している数字は、平成18年3月期の数字に、平成17年9月期の旧住友製薬の数字を単純合算しています。

I. 連結財務ハイライト

1. 損益計算書項目

(億円)

	平成18年	平成19年3月期		平成20年3月期		平成19年9月中間期	
	3月期		増減率%	予想	増減率%	予想	増減率%
売上高	2,458	2,612	6.3	2,730	4.5	1,330	4.8
売上原価	1,304	993	△ 23.8	1,020	2.7		
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	865 (296)	1,163 (409)	34.5 (37.9)	1,250 (480)	7.5 (17.4)		
営業利益	289	456	57.7	460	1.0	220	7.5
経常利益	272	432	58.5	440	1.9	210	7.3
当期(中間)純利益	154	226	47.0	260	15.0	124	30.8

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

1株当たり当期純利益(円)	54.57	56.86	65.41
自己資本当期純利益率(ROE)	7.3%	7.6%	8.3%
連結配当性向	22.0%	24.6%	27.5%

(参考) 単純合算による比較

(億円)

	平成18年	平成19年3月期	
	3月期		増減率%
売上高	3,182	2,612	△ 17.9
売上原価	1,521	993	△ 34.7
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	1,214 (418)	1,163 (409)	△ 4.2 (△ 2.3)
営業利益	447	456	2.0
経常利益	422	432	2.3
当期純利益	253	226	△ 10.5

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

2. 貸借対照表項目

(億円)

	平成18年	平成19年	前期末との
	3月末	3月末	増減額
総資産	3,930	3,825	△ 104
純資産(注)	2,886	3,060	174
自己資本	2,878	3,051	173

自己資本比率 73.2% 79.8%

(注) 当期の表示区分に組み替えております。

3. 設備投資及び減価償却費の状況

(億円)

	平成18年 3月期	平成19年 3月期	増減額	平成20年 3月期(予)	増減額
設備投資額(無形固定資産を含む)	66	95	29	175	80
減価償却実施額	86	113	27	117	4

・平成20年3月期の主な設備投資

鈴鹿工場 新固形製剤棟の建設 100億円 (総予算 100億円、平成19年10月竣工予定)

総合研究所 西棟動物室改修工事 5.5億円 (総予算 5.5億円、平成20年1月完成予定)

4. キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	平成18年 3月期	平成19年 3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	91	379	288
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 104	△ 197	△ 92
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 73	△ 78	△ 5
現金及び現金同等物の期末残高	713	817	104

II. 連結損益計算書

1. 損益計算書

(億円)

	平成18年	平成18年	平成19年	増減額	
	3月期	3月期 (単純合算)	3月期		
売上高	2,458	3,182	2,612	△ 570	・アホットジャパン(株)等との販売提携解消の影響 ・工業所有権収入の減少 ・薬価改定の影響 ・戦略4製品を中心とした医薬品の販売数量増
売上原価	1,304	1,521	993	△ 528	・仕入品の減少や主力品目の増加により品目構成が変化
売上総利益	1,153	1,661	1,619	△ 42	売上原価率 47.8% → 38.0%
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	865 (296)	1,214 (418)	1,163 (409)	△ 51 (△10)	・薬価改定の影響 ・工業所有権収入の減少 ・主力品目の増加
営業利益	289	447	456	9	・人件費の減少 ・販売促進費や運送費等の減少
営業外収益	17	20	19	△ 2	
営業外費用	34	45	43	△ 3	
経常利益	272	422	432	10	
特別利益	44	89	—	△ 89	
投資有価証券売却益	19	19	—		
固定資産売却益	18	18	—		
厚生年金基金代行部分返上益	8	8	—		
事業譲渡関連益	—	45	—		
特別損失	60	98	48	△ 51	
特別退職金	—	6	29		
訴訟関連費用	—	—	10		・ニューキノロン化合物のライセンス契約に係る訴訟関連費用
退職給付制度改定に伴う損失	—	—	6		
固定資産減損損失	—	—	2		・鈴鹿、茨木工場の遊休固定資産の減損
合併関連費用	58	82	—		
事業整理に伴う損失	2	10	—		
税金等調整前当期純利益	257	413	384	△ 29	
法人税、住民税及び事業税	104	162	120	△ 41	
法人税等調整額	△ 1	△ 2	37	39	
少数株主利益	1	1	1	△ 0	
当期純利益	154	253	226	△ 27	

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

増減額は単純合算による前期との比較です。

2. 事業の種類別セグメント情報

(億円)

	平成18年3月期			平成19年3月期			平成20年3月期(予)			平成19年9月中間期(予)		
	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計
売上高	1,926	532	2,458	2,063	550	2,612	2,170	560	2,730	1,065	265	1,330
営業利益	277	11	289	444	12	456						

3. 主要製品の販売状況

国内売上高

(リベート控除前、億円)

品 目 [薬 効]	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期 予想
ア ム ロ ジ ン [高血圧症・狭心症治療薬]	568	592	660
ガ ス モ チ ン [消化管運動機能改善剤]	163	185	210
メ ロ ペ ン [カルバペネム系抗生物質製剤]	141	143	155
プ ロ レ ナ ー ル [末梢循環改善剤]	126	138	160
エ バ ス テ ル [持続性抗アレルギー剤]	113	114	110
ス ミ フ ェ ロ ン [天然型インターフェロン α 製剤]	60	64	69
キ ュ バ ー ル [吸入ステロイド喘息治療剤]	42	48	56
グ ロ ウ ジ ェ ク ト [ヒト成長ホルモン製剤]	49	48	52
ド プ ス [ノルエピネフリン作動性 神経機能改善剤]	47	45	41
グ リ ミ ク ロ ン [経口血糖降下剤]	47	44	43
タ ガ メ ッ ト [H ₂ 受容体拮抗剤]	46	39	36
エ ク セ グ ラ ン [抗てんかん剤]	36	36	35
ア ル マ ー ル [高血圧症・狭心症・不整脈 治療剤]	37	35	30
ル ー ラ ン [抗精神病剤]	30	31	34
セ デ イ ー ル [セロトニン作動性抗不安薬]	31	30	29
ク ラ リ シ ッ ド [マクロライド系抗生物質製剤]	190	—	—
エンシュア・リキッド [経腸栄養剤]	138	—	—
シ ナ ジ ス [RSウイルス感染発症抑制剤]	120	—	—
セ ボ フ レ ン [全身吸入麻酔剤]	44	—	—
ロ ペ ミ ン [止瀉剤]	31	—	—

輸出高 (億円)

品目 [薬効]	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期 予想
メロペネム [カルバペネム系抗生物質製剤]	129	161	159
モサプリド [消化管運動機能改善剤]	9	14	16
ゾニサミド [抗てんかん剤]	24	8	2
その他	6	8	7
輸出合計	(単純合算) 168	191	184

工業所有権収入 (億円)

	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期 予想
工業所有権収入	(単純合算) 85	39	23

海外売上高比率： 8.4% (注)海外売上高は輸出高と工業所有権収入の一部を含みます。

4. 販売費及び一般管理費

(億円)

	平成18年3月期		平成19年3月期		平成20年3月期(予)	
		売上比%		売上比%		売上比%
売上高	2,458	100.0	2,612	100.0	2,730	100.0
人件費	257	—	321	—		
広告宣伝費	34	—	50	—		
販売促進費	67	—	95	—		
その他	210	—	289	—		
販売費・一般管理費	568	23.1	754	29.0	770	28.2
研究開発費	296	12.1	409	15.6	480	17.6
販売費及び一般管理費	865	35.2	1,163	44.6	1,250	45.8

(参考)単純合算

(億円)

	平成18年3月期		平成19年3月期	
		売上比%		売上比%
売上高	3,182	100.0	2,612	100.0
販売費・一般管理費	796	25.0	754	29.0
研究開発費	418	13.1	409	15.6
販売費及び一般管理費	1,214	38.2	1,163	44.6

Ⅲ. 連結貸借対照表

[資産の部]

(億円)

科 目	前期末 平成18年 3月31日	当期末 平成19年 3月31日	対前期末 増減
[資 産 の 部]	3,930	3,825	△ 104
(流動資産)	2,497	2,343	△ 154
現金及び預金	603	558	△ 46
受取手形及び売掛金	1,145	888	△ 257
有価証券	140	280	140
たな卸資産	441	450	8
繰延税金資産	111	104	△ 7
その他	58	66	9
貸倒引当金	△ 1	△ 2	△ 1
(固定資産)	1,432	1,482	50
有形固定資産	683	652	△ 31
建物及び構築物	377	374	△ 3
機械装置及び運搬具	141	113	△ 28
土地	100	100	△ 0
建設仮勘定	16	19	3
その他	49	46	△ 3
無形固定資産	60	67	8
投資その他の資産	689	763	73
投資有価証券	489	520	31
繰延税金資産	4	0	△ 4
その他	201	246	45
貸倒引当金	△ 4	△ 4	1
資産合計	3,930	3,825	△ 104

・販売提携解消による影響や
回収期間の短縮

・運用手段の多様化
CP、社債や長期性預金へ振替

	平成18年3月期	平成19年3月期
売上債権滞留月数	4.27カ月	4.08カ月

[負債純資産の部]

(億円)

科 目	前期末 平成18年 3月31日	当期末 平成19年 3月31日	対前期末 増減	
[負 債 の 部]	1,043	765	△ 278	
(流動負債)	801	560	△ 240	
支払手形及び買掛金	387	180	△ 207	←販売提携解消による影響他
未払法人税等	84	82	△ 2	
賞与引当金	81	80	△ 0	
返品調整引当金	1	1	0	
売上割戻引当金	6	5	△ 1	
訴訟関連費用引当金	—	10	10	
その他	242	201	△ 41	←短期借入金の返済他
(固定負債)	243	205	△ 38	
長期借入金	53	46	△ 7	
繰延税金負債	—	21	21	
退職給付引当金	141	82	△ 59	←退職金制度統合による影響他
役員退職慰労引当金	1	1	△ 0	
その他	48	56	8	
[純 資 産 の 部] (注)	2,886	3,060	174	
(株主資本)	2,704	2,873	168	
資 本 金	224	224	—	
資 本 剰 余 金	159	159	0	
利 益 剰 余 金	2,325	2,495	170	
自 己 株 式	△ 3	△ 5	△ 1	
(評価・換算差額等)	173	178	5	
その他有価証券評価差額金	173	178	5	
(少数株主持分)	9	9	1	
負債純資産合計	3,930	3,825	△ 104	

(注)当期の表示区分に組み替えております。

IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数

1. 平成19年3月期 連単倍率

(億円)

	連 結	個 別	差 額	倍 率(倍)
売 上 高	2,612	2,478	134	1.05
営 業 利 益	456	453	3	1.01
経 常 利 益	432	429	3	1.01
当 期 純 利 益	226	225	1	1.00

2. 連結子会社の状況（平成19年3月31日現在）

	設立年月日	資本金	持株比率
五協産業株式会社	昭和22年10月	100百万円	52.48%

3. 従業員数（平成19年3月31日現在）：連結・・・4,913人、個別・・・4,834人

4. MR数（平成19年3月31日現在）：1,470人…マネージャー除く、1,700人…マネージャー含む

V. 個別財務ハイライト

1. 損益計算書項目

（億円）

	平成18年 3月期	平成19年3月期		平成20年3月期		平成19年9月中間期	
			増減率%	予想	増減率%	予想	増減率%
売上高	2,326	2,478	6.6	2,590	4.5	1,260	4.7
売上原価	1,190	876	△ 26.3	900	2.7		
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	850 (297)	1,149 (409)	35.2 (37.8)	1,234 (480)	7.4 (17.4)		
営業利益	286	453	58.2	456	0.8	218	7.2
経常利益	270	429	58.7	436	1.6	208	7.0
当期(中間)純利益	154	225	46.5	259	14.9	124	30.7

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

1株当たり当期純利益(円) 54.63 56.72 65.16

2. 貸借対照表項目

（億円）

	平成18年 3月末	平成19年 3月末	増減額
総資産	3,874	3,764	△ 111
純資産(注)	2,869	3,041	173

自己資本比率 74.0% 80.8%

(注) 当期の表示区分に組み替えております。

VI. 株式の状況（平成19年3月31日現在）

1. 発行可能株式総数 1,500,000,000株
2. 発行済株式の総数 397,900,154株（自己株式 398,980株）
3. 株主数 16,048名

4. 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
住友化学株式会社	199,434	50.12
稲畑産業株式会社	33,282	8.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	14,312	3.60
日本生命保険相互会社	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	9,931	2.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	7,000	1.76
住友生命保険相互会社	5,776	1.45
ニッセイ同和損害保険株式会社	4,928	1.24
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウンツ イー アイエスジー	4,192	1.05
第一生命保険相互会社	3,248	0.82

VII. 開発状況表

・ 国内で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
申請中	AD-5423 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症治療剤	自社開発品
	経口剤	イルベサルタン irbesartan	高血圧症治療剤	sanofi-aventis 社起源。ブリistol・マイヤーズ(株)よりサブライセンス。塩野義製薬(株)と国内共同開発
申請中 新効能	AD-810N 経口剤	ゾニサミド zonisamide	適応症追加 (パーキンソン病)	自社開発品 別銘柄申請 既承認適応症: てんかん (製品名: エクセグラン)
	スミフェロン SUMIFERON 注射剤	インターフェロンアルファ (NAMALWA) interferon- α (NAMALWA)	適応症追加(C 型代償性肝硬変)	GlaxoSmithKline 社からの導入品 既承認適応症: C 型慢性肝炎、腎癌 他
申請中 新投与経路	エフェドリン「ナガキ」 EPHEDRINE NAGAI 注射剤	塩酸エフェドリン ephedrine hydrochloride	静脈内投与 適応症: 麻酔管理時の血圧降下	既承認投与経路は皮下投与 3社共同申請

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅲ相 新効能	メロペン MEROPEN (SM-7338) 注射剤	メロペネム三水和物 meropenem trihydrate	適応症追加 (発熱性好中球減少症)	自社開発品 既承認適応症: 種々の細菌による中等度以上の感染症

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅱ相	AS-3201 経口剤	ラニレスタット ranirestat	糖尿病合併症治療 剤	自社開発品 杏林製薬(株)との共同開発
	SM-11355 注射剤	ミリプラチン水和物 miriplatin hydrate	肝細胞癌治療剤	自社開発品
	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症治療剤	自社開発品
	SMP-114 経口剤	rimacalib	関節リウマチ治療剤	自社開発品
	SMP-508 経口剤	レパグリニド repaglinide	糖尿病治療剤	Novo Nordisk 社からの導 入品
	SMP-862 経口剤	塩酸メトホルミン metformin hydrochloride	糖尿病治療剤	Merck Sante 社からの導 入品
	AC-3933 経口剤	radequinil	認知症治療剤	自社開発品
第Ⅱ相 新効能	プロレナール PRORENAL 経口剤	リマプロスト アルファデクス limaprost alfadex	適応症追加 (頰椎症)	小野薬品工業(株)との共同 開発 既承認適応症:閉塞性血 栓血管炎、腰部脊柱管狭 窄症による諸症状

【2007年2月 第3四半期決算発表時点からの主な変更点】

リプレガル

発売したため削除

・ 海外で自社開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅲ相	AS-3201 経口剤	ラニレスタット ranirestat	糖尿病合併症治療 剤	自社開発品 米国・カナダ:第Ⅲ相

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅱ相	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症治療剤	自社開発品 米国・欧州等:第Ⅲ相準備 中
	SMP-114 経口剤	rimacalib	関節リウマチ治療剤	自社開発品 欧州:後期第Ⅱ相
	AD-5423 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症治療剤	自社開発品 米国・欧州:第Ⅱ相
	AC-3933 経口剤	radequinil	認知症治療剤	自社開発品 米国・欧州:前期第Ⅱ相
	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱治療剤	自社開発品 米国・欧州:第Ⅱ相

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅰ相	SMP-028 経口剤	未定	気管支喘息治療剤	自社開発品 米国:第Ⅰ相

【2007年2月 第3四半期決算発表時点からの主な変更点】

ルラシドン

米国・欧州等：第Ⅲ相検討中から第Ⅲ相準備中に変更

・ 海外導出品の開発状況

一般名／コード名 (日本での販売名)	薬効分類	開発状況
AG-7352	抗癌剤	2003年10月、Sunesis社に全世界の独占的開発権をライセンス、同社が第Ⅱ相試験実施中(同社開発コード:SNS-595)
SMP-601	重症感染症治療剤	2005年5月、Protez Pharmaceuticals社へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社がスイスで第Ⅰ相試験を実施中
塩酸アムルピシン (カルセド)	抗癌剤	2005年6月、Pharmion社(旧 Cabrellis社)へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社が欧米で第Ⅱ相試験を実施中
ラニレスタット AS-3201	糖尿病合併症治療剤	2005年9月エーザイ(株)に日本を除く全世界の開発・販売権をライセンス 当社が現在実施中の米国・カナダでの第Ⅲ相試験以降の開発をエーザイ(株)が引き継ぐ

【2007年2月 第3四半期決算発表時点からの主な変更点】

なし

Ⅷ. 主な開発品のプロフィール

AD-5423 (ブロンセリン) 統合失調症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 臨床試験においてドーパミン-2 受容体およびセロトニン-2 受容体の遮断作用を有しており、統合失調症の陽性症状（幻覚、妄想など）のみならず、陰性症状（感情の平板化、意欲低下など）に対する改善効果が示された。また、類薬に比べ錐体外路症状や体重増加等の副作用が少ないことも示された。
- ・ 開発段階：申請中（国内）、フェーズⅡ（米国・欧州）

イルベサルタン 高血圧症治療剤

- ・ sanofi-aventis 社起源、ブリストル・マイヤーズ(株)からサブライセンス、国内は塩野義製薬(株)と共同開発
- ・ 国内で6番目のARB（アンジオテンシンⅡ受容体阻害剤）
- ・ 長期に安定した降圧効果を示す。腎、心保護作用を有する。欧米では上市済みであり、有効性および安全性について豊富なエビデンスが存在する。
- ・ 開発段階：申請中（国内）

AD-810N (ゾニサミド) パーキンソン病（適応症追加）

- ・ 自社開発品
- ・ 1989年6月、抗てんかん剤として発売（製品名「エクセگران」）。ドーパミン受容体作用薬に代表される従来の抗パーキンソン病薬と異なるメカニズムでパーキンソン病の症状を改善すると考えられる。
- ・ 開発段階：申請中（国内）

AS-3201 (ラニレスタット) 糖尿病合併症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。海外フェーズⅡa試験の結果、ヒト神経内への移行は良好で用量依存的に神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積を阻害した。
現在、糖尿病性神経障害に対して有用性を精査するための北米フェーズⅢ試験を実施している。2005年9月に海外の開発・販売権についてエーザイ(株)とライセンス契約を締結した。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ（米国・カナダ）、フェーズⅡ（国内、杏林製薬(株)との共同開発）

SM-13496 (ルラシドン) 統合失調症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 強力なドーパミン-2 受容体拮抗作用、セロトニン-2、-7、-1A 受容体拮抗作用を有しており、統合失調症に対して持続的な効果を示し、副作用面では、錐体外路系副作用や心臓系に対する作用や体重増加の副作用が少なく、優れた安全性を有すると期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ準備中（米国・欧州等）、フェーズⅡ（国内）

SM-11355 (ミリプラチン水和物) 肝細胞癌治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、脂溶性白金錯体で、リポドールに懸濁して肝動注する。リポドールを担体として用いることで、腫瘍部位に選択的に、かつ長時間徐放性に活性体を放出するので、全身性の副作用が軽減され強い抗腫瘍効果を発揮することが期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

SMP-114 関節リウマチ治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 経口投与の新規DMARD (Disease Modifying Anti-Rheumatic Drug) であり、関節リウマチにおける慢性炎症、関節破壊、関節変形の進行を抑制することが期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（欧州）、フェーズⅡ（国内）

SMP-508 (レパグリニド) 糖尿病治療剤

- ・ Novo Nordisk 社から導入
- ・ 本剤は、膵β細胞に作用してインスリンを分泌させるが、既存のSU剤に比し、インスリン分泌作用が速効性で短時間である速効型インスリン分泌促進剤である。2型糖尿病患者でみられる食後早期のインスリン分泌低下を、健常人のインスリン分泌動態に近づけることにより、食後血糖上昇が抑制され、空腹時血糖やHbA1cの低下が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

SMP-862 (塩酸メトホルミン) 糖尿病治療剤

- ・ Merck Sante 社から導入
- ・ 本剤は、インスリン分泌促進を伴わず、インスリン抵抗性等を改善して血糖降下作用を示す特長を持つ塩酸メトホルミン製剤である。当社は、1961年に塩酸メトホルミンを含有する「メルビン錠」を日本で最初に自社開発・販売しているが、近年の作用メカニズムの解明や欧米の大規模試験での臨床知見の蓄積を受け、更に日本人でのEBMに資する治療情報を提供することが重要であると考え、本剤にて現在の新薬承認基準に適合したデータを再整備し、適切な効能効果、用法用量の新規取得を目指している。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

AC-3933 認知症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ ベンゾジアゼピン受容体にパーシャルインバースアゴニストとして作用する。アセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、アセチルコリン遊離促進によりアセチルコリン神経系を賦活するとともに、グルタミン酸神経系を賦活する作用も有し、認知症の中核症状である記憶障害の改善が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国・欧州）、フェーズⅡ（国内）

SMP-986 過活動膀胱治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ムスカリン受容体に対する拮抗作用に加え、過活動膀胱における膀胱から中枢への異常な情報伝達を抑制する作用を有することで、結果として1回あたりの排尿量を増加させ、排尿、尿意切迫感および尿失禁の回数を減少させ、また、ムスカリン-3拮抗作用に由来する副作用（口渇）との分離も期待できる。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国・欧州）

SMP-028 気管支喘息治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は気管支喘息の病態形成に関与する主要な炎症細胞に幅広い抑制作用を示す。強い抗炎症作用を有する新規メカニズムの喘息治療剤になることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I（米国）

以 上